

県立広島大学教員活動情報

所属学部等	生命環境学部	生命科学科	専攻	生命システム科学専攻
職氏名	准教授	佐藤之紀		
専門分野	食品化学	食品工学	調理科学	家政学

1. 教育活動 (平成19年度) 平成20年10月採用

(1)担当科目(学部)	専門基礎実験 (生物)			
(大学院)	食品機能開発学			
(2)教育関係 特記事項				

2. 研究活動 (平成17～19年度)

(1)論文等	高知市およびその近郊の家庭における魚介類の調理状況，単著，日本調理科学会誌第39号、第1号．	平成18年2月
	高齢者用食品試験法で得られる液状食品に関する力学物性パラメータの物理学的意味，佐藤ら、日本家政学会誌，第58号、第5号．	平成19年5月
(2)著書	新版 調理科学事典、日本調理科学会編、光生館、ISBN 4-332-05027-4、2ページ分	平成18年9月
	食品加工・安全・衛生、朝倉書店、ISBN 978-4-254-61644-6、4ページ分	平成19年2月
	食品学・食品機能学、朝倉書店、ISBN 978-4-254-61644-6、6ページ分	平成19年4月
(3)学会発表等	アミノ酸水溶液中におけるペクチン分子間相互作用、平成17年度日本農芸化学会（口頭発表）	平成17年3月
	高齢者用食品の試験方法で得られる力学物性値の物理学的意味、日本家政学会第57回大会（口頭発表）	平成17年5月
	水溶液中におけるペクチン分子間相互作用に及ぼすアミノ酸の影響、日本食品工学会第6回年次大会（口頭発表）	平成17年7月
(4)工業所有権等	なし	
(5)外部資金採択状況	科学研究費補助金（代表） 1件 科学研究費補助金（分担） 件 その他外部資金 件	
(6)研究関係 特記事項	乳児期や幼児期までの家庭教育や社会教育が、人間としての基本的信頼感を形成するのに大きく影響していると考えられる。子どもにとってまず初めの関門は、人乳栄養から離れ、スープなどの液状食品を自分で飲んでみることである。乳幼児は、親からの言葉の意味を自然と感じとり、食生活を通じて基本的信頼感を形成する。そして、“熱い”とか“どろどろ”しているとか、親からの言葉と自分の得た体験を通じて、食物の物性イメージが完成していく。一方、食べ物を噛むなどの行動が、生理機能に影響を与えている。たとえば、よく食物を噛まないと、歯の噛み合わせに影響するようである。また、パロプロの実験で有名なように、視覚などの刺激が唾液の分泌にも影響するなど、食品のおいしさは化学的な知見のみだけでは解決できず、食物の物理学的性質が人間の成長に特に重要であることは明確である。そのような背景のもとで、高分子間相互作用の物理化学的機構の解明に重点をおき、最終的には複雑系である食品の物性と機能の関係を解明しようとしている。 研究室の具体的なテーマは、以下にあげる内容である。 ・水溶液構造の変化にともなう高分子間相互作用の解析 ・ユズ果皮の有効利用に関する研究 ・ベビーフード中の高分子分子間相互作用の解析 ・高齢者用食品試験法の物理理論解析	

3. 地域貢献活動 (平成19年度)

(1)審議会等委員	日本家政学会データベース委員会入力協力委員	H13.4～H20.9
	日本調理科学会支部役員	H14.1～
	日本食品工学会評議員	H19.8～
(2)公開講座等	第2回公開特別講義 食品の物性と機能	平成20年1月26日 幼児が魚介類を好きになるきっかけ
(3)地域貢献 特記事項	(2)公開講座等は、前任校で企画し、実施したものである。	

4. 大学運営活動 (平成19年度)

(1)学内委員等	
(2)大学運営 特記事項	

以上は、主要な活動について掲載しています。